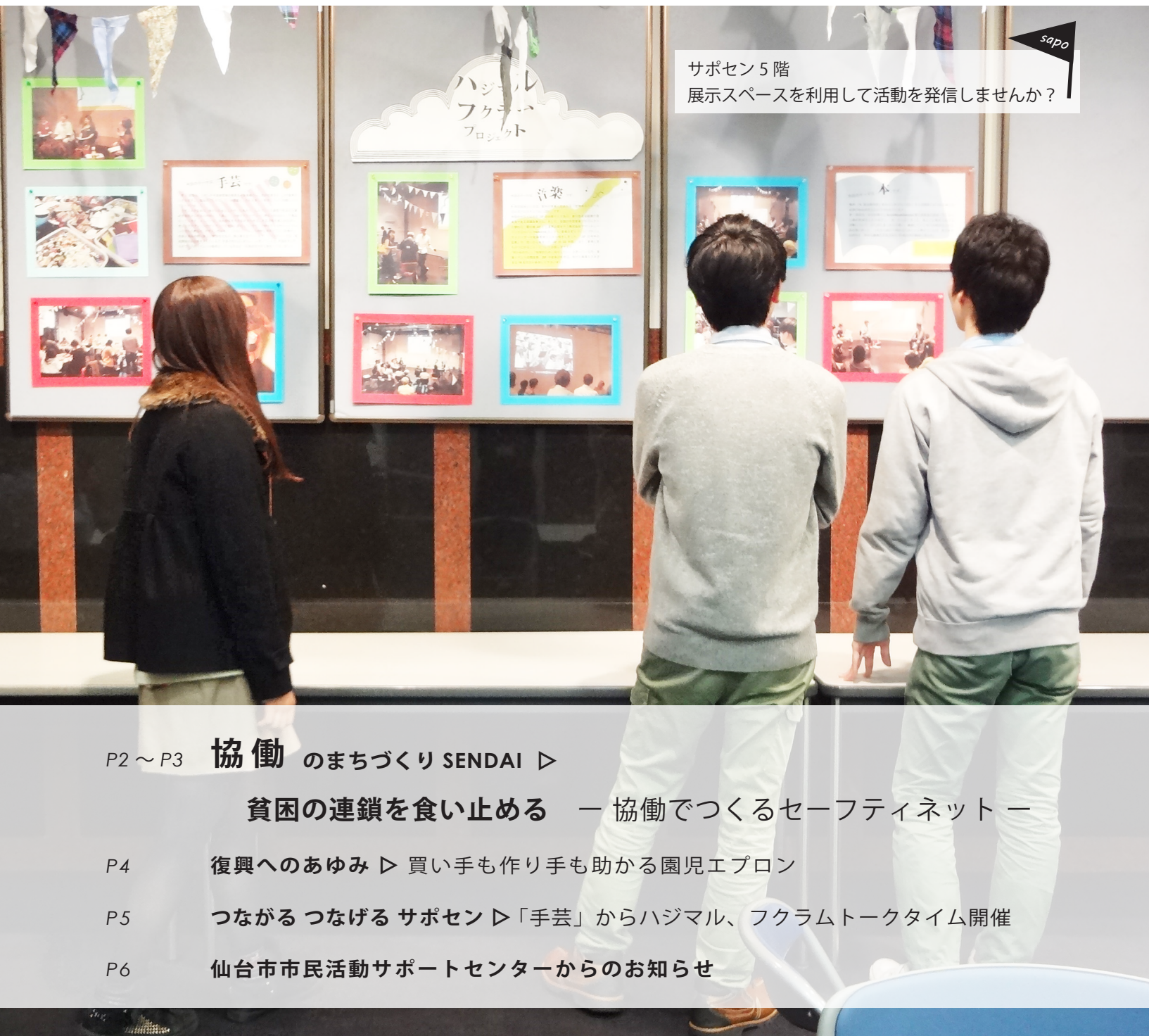


# ぱれっと

12月 2013  
No.172

“ぱれっと”には、サポセンにいる  
いるな人が集まり、それぞれの色  
(個性)が発揮され、新しい出会い  
や活動が生まれていく…そんな願い  
がこめられています。



サポセン5階  
展示スペースを利用して活動を発信しませんか?

P2 ~ P3 **協働** のまちづくり SENDAI ▷

貧困の連鎖を食い止める — 協働でつくるセーフティネット —

P4 復興へのあゆみ ▷ 買い手も作り手も助かる園児エプロン

P5 つながる つなげる サポセン ▷ 「手芸」からハジマル、フクラムトークタイム開催

P6 仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ



社会の課題を解決するためには、市民・企業・行政が連携して取り組む“協働”が重要です。仙台の市民活動における協働の事例や関連情報をお伝えします。

## 貧困の連鎖を食い止める — 協働でつくるセーフティネット —

NPO法人アスイク（以下、アスイク）とみやぎ生活協同組合（以下、みやぎ生協）、一般社団法人パーソナルサポートセンター（以下、PSC）は、2013年7月から、生活困窮世帯の中学生対象の無料学習サポート事業を行っています。上記3団体で構成される「せんだい学びとくらしの安心サポート共同体」が、仙台市の委託事業として運営するこの事業は、子どもの学習支援だけでなく、保護者の就労支援や生活再建もサポートし、「貧困の連鎖（※右ページ上「協働のポイント」参照）を断ち切ることを目指しています。

### 出会い ～きっかけは場所探し～

アスイクは、震災後に設立された団体です。被災地の学校は、震災によって被災したり避難所となったりしたため、再開の見通しが立ちませんでした。「このままでは子どもたちの学習が遅れてしまう」と、避難所に学習ボランティアを派遣する活動を始めました。学校が再開され、避難所が閉鎖された後も、プレハブ応急仮設住宅や借り上げ民間賃貸仮設住宅に暮らす子どもたちの学習サポートに取り組んできました。活動のための「教室の場所探し」をしている中で、みやぎ生協と出会います。みやぎ生協店舗の集会室を教室として使わせてもらえることになったのです。「家から自転車で行けるぐらいの距離にあるから、保護者の方々からは“安心できる”と好評なんです」とアスイク代表理事の大橋雄介さん。

一方、普段買い物をする場所（スーパー）として市民生活に密着しているみやぎ生協。生協は、メンバー（組合員）とともに生活の文化的経済的改善向上をはかることを目的とした消費生活協同組合です。つまり「助け合い」「協同」という考えに基づいて生まれた組織。震災を機にさらに「地域の中で役割を果たす」という想いが強まったそうです。みやぎ生協くらしの安心サポート部部長の小澤義春さんは「みやぎ生協は県内の7割の人がメンバーになっています。この数字からすれば、地域に貢献することはメンバーさんへの貢献とほぼ同義と考えて良い



▲ 定期的に行われている三者会議の様子

し、そもそも地域が良くならなければメンバーさんの生活も良くなりません」との考えを話してくださいました。店舗の集会室をNPOなどに貸し出しているのも地域貢献の一環です。「アスイクの理念に共感できたし、WEBサイトなどでしっかり情報発信しているから、信用できる団体だと思いましたよ」。

### 広がる協働 ～3者協働の成立～

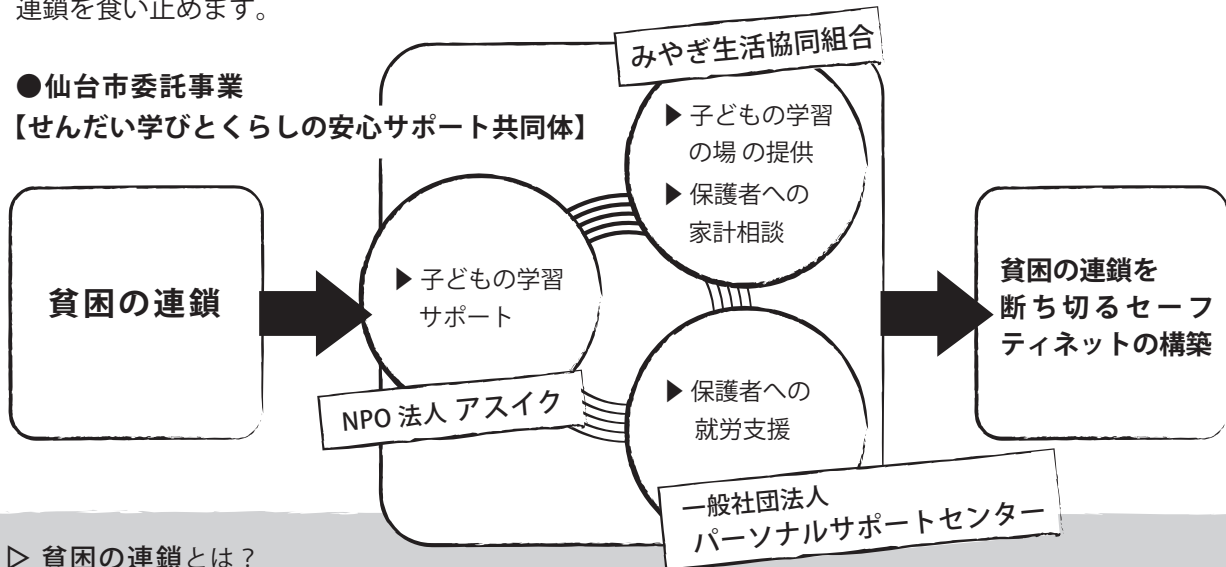
学習サポートをする中で保護者の方々と面会し、話をすることも多いアスイクのスタッフ。「家計や仕事に関する話は、残念ながらアスイクだけでは対応できません。しかし、適切な相談先へつなぐことはできます」と大橋さん。まず、みやぎ生協は家計相談のノウハウがあり、家計簿のつけ方、収入・支出のバランスのアドバイスができる強みを持っていました（2013年9月に「くらしと家計の相談室」を開設しています）。さらに、みやぎ生協を通じPSCと出会うことができました。PSCは、主に被災者の

## 協働のポイント

子どもの学習支援はアスイク、保護者の家計相談はみやぎ生協、就労支援はPSCと、それぞれの団体の強みを生かして、生活困窮家庭を包括的にサポートすることで、貧困の連鎖を食い止めます。

### ●仙市委託事業

【せんだい学びとくらしの安心サポート共同体】



### ▷ 貧困の連鎖とは？

親が貧困状態へ陥ってしまうと、親や家庭環境からの影響を大きく受ける子どもは、学力や社会性を十分育むことができず、成長した時にも貧困状態から抜け出すことができないという、親から子へと世代間で貧困が継続していくことを指す。外部からの支援介入がない限り継続するといわれている。

生活再建支援・就労支援を行っている団体です。PSC 理事の立岡学さんは「地域で困っている人がいたら、その地域で助け合って解決しないと。それが地域の力じゃないかな」と言います。こうして、子どもだけではなく、家庭環境の支援も包括的にサポートする体制ができました。

## 協働できる団体と出会うには？

アスイクの大橋さんは「自団体の弱さを自覚し、協力をお願いできることではないでしょうか」と言います。「困っている人を助けたいと思うのは当然。でも、自分だけではできない時もある。そこで“自分が助ける”ことにこだわるのではなく、適切どころにつなげばいい。大事なのは困っている人が助かること。誰が助けるかは、さほど重要ではないんですよ」と、みやぎ生協の小澤さんとPSCの立岡さんも同調します。協働において「お互いを知る」というのは基本ですが、その中で共通点を得られるか。また、その専門性を尊敬し合い信頼できるか。取り組むべき課題や、重視すべきことを、きちんと共通認識として持っているか。これらの事柄が今回この3者が共同体をつくることのできたポイントと言え

るでしょう。

3者の取り組みは、地域で構築するセーフティネットとして先駆的なものであり、今求められている「市民協働」を体現しています。この取材を通して、仙台の市民の力を感しました。（菅野祥子）

### 団体情報

#### ・NPO 法人アスイク

〒983-0852  
 仙台市宮城野区榴岡 5-3-21 コーポ小松 101  
 TEL/FAX : 022-781-5576 Mail : info@asuiku.org  
<http://asuiku.org/>

#### ・みやぎ生活協同組合

<http://www.miyagi.coop/>

#### みやぎ生協くらしと家計の相談室

〒983-0852  
 仙台市宮城野区榴岡 2-3-15 花本ビル 8階  
 TEL : 022-292-5015(月～土 10:00～17:00 日祝除く)  
<http://www.miyagi.coop/support/kashitsuke/index.html>

#### ・一般社団法人パーソナルサポートセンター

〒980-0802  
 仙台市青葉区二日町 6-6 シャンボール青葉 2階  
 TEL : 022-399-9662 / FAX 022-224-1621  
 Mail : info-kizuna@personal-support.org  
<http://www.personal-support.org/>

## 買い手も作り手も助かる園児エプロン

園児エプロンプロジェクトは、保育園に入園する子どもを持つお母さんに、被災地の女性が縫った園児エプロンを販売する手仕事支援です。エプロンを縫う時間のないお母さんも助かり、被災地の女性も縫製代と収入を得られ、両方助かるこの仕組み。ありそうでなかった支援を作ったきっかけや、思いを代表の大坂裕子さん(右写真)にお聞きしました。



### 母親ならではの視点で発案

震災後、親戚が沿岸部で被災し、何かしなければと思いながらも、小さな子どももいて力仕事を手伝うこともできず、はがゆい思いをしていた大坂さん。そんな時思いついたのがこのプロジェクト。「私の子どもが通う保育園では、1日3枚手作りの園児用エプロンを持参しますが、私は裁縫が得意ではありません。あまり市販されていないこともあり、入園準備時期に姉にお願いしたところ、喜んで作ってくれたことを思い出しました。エプロンを被災地の女性に縫ってもらい、私が販売する手助けをすれば、それが被災地支援になるのではと思ったのです」。このアイデアを副園長に話したところ、その日のうちに見本を作ってくれました。

つながりのあった南三陸町で作り手を募集。4人の女性が製作してくれることになりました。エプロンは2枚セット1,000円で販売し、経費を除いた金額が縫い手の収入となります。スナップで着脱できるポケット、当たりが柔らかい髪ゴムを使った首ひもなど、使いやすいデザインのエプロンは、裁縫が苦手だったり、忙しいお母さんたちにはとても助かり、復興支援にもつながりました。

### 思いがけない反響と活動のひろがり

2012年2月から、短期間の活動のつもりで始めましたが、買い手と作り手両方から継続を希望する声

があり、続けることになりました。同年8月、サボセンのNPOいろは塾を受講。そのあと相談コーナーを活用。今後の活動へのアドバイスをもとに申請した助成金が採択されました。南三陸の作り手のうち2人が進学、1人は漁業へ復帰し、メンバーが減少。残る1人が気仙沼で新たな人材の育成を担当することになったので、その費用や材料費を助成金でまかないました。

### 「仕事」で長期的支援をめざします

「縫製代を手渡しした時のうれしそうな顔や、『稼いだお金で親にプレゼントを買ったよ』と言われると、お金や物ではない『仕事』を支援できてよかったと感じます。保育園の必需品である園児エプロンは、常に一定のニーズがあります。被災地の状況に合わせて10年以上の長い支援ができたと思っています」と大坂さん。

震災の記憶の風化とともに復興グッズの販売に苦勞する声を耳にします。日常的に必要なものと「あったらいいな」を結びつけたこのプロジェクトに手仕事継続のヒントがあるかもしれません。(難波未由希)

#### 団体情報

#### 園児エプロンプロジェクト

代表 大坂 裕子

Mail: enjiapron@gmail.com

# ハジマル、フクラム プロジェクト

つながる  
つなげる  
サポセン

このプロジェクトでは、毎回さまざまな分野で活動するゲストをお招きしてトークイベントをひらきます。自分の好きなこと、気になること。そこからはじまった色々な活動と、はじめた人たち。そんな活動や人との出会いをきっかけに、互いのアイデア、想いをモクモクとふくらませていくプロジェクトです。

## 手芸 からハジマル、フクラムトークタイム 11/9 開催

今回は、リボンヌ手芸部宮城の部長五十嵐香織さん、武田和恵さん、上村俊幸さんをお招きし、福祉の「ものづくり」の課題と、それを楽しく解決していく活動についてうかがいました。

リボンヌ手芸部は、障がいのある人が作った素材や、ものづくりの過程で生まれる廃材を施設から手芸の材料として購入し、小物やアクセサリーに再生=Re-bornして商品化しています。メンバーは、福祉関係者や手芸好きの有志。手芸活動を楽しみながら、売り上げやアレンジのアイデアを施設に還元しています。小物やアクセサリーにアレンジされた商品は、デザイン性が高く、「かわいい」という純粋な理由でファンを増やし、社会と福祉の間に新しい関係性を生み、関心層を広げています。トークタイムには、福祉関係のお仕事をされている方、手芸で何かはじめたい!と思っている方、手芸好きな方、ものづくりのイベントや販売をしている方など、16名の方々にご参加くださいました。

## ワークショップ ブローチをつくろう!

トークの後にいった、リボンヌ手芸部の活動体験では、実際に授産施設から買い取った素材でブローチをつくりました。ワークショップを通じて、参加者のみなさんと「おしゃべりしたり、教え合ったり、楽しみながらする手芸が、誰かのためになっちゃう」という活動の魅力を体験することができました。

参加者のみなさんからは、「リボンヌ手芸部の活動の仕組みやアイデアに目からウロコ!」「お店では買えない素材で作る商品は、リボンヌならではの価値がある!」という感想があり、「入部したい!」とさっそくアクションをおこした方もいらっしゃいました。



▲ さをり織りの切れ端や、大きさが不揃いのフェルトボールなど、使われなかった材料たちが…



▲ かわいいブローチに Re-born!

サポセン  
ハジメル  
POINT

1. 自分の好きなこと、関心のあることは何ですか? キーワードをみつめてみよう!
2. 同じようなキーワードで活動をしている人を知っていますか? 情報収集しよう!
3. 見つけた活動に実際に参加してみよう! 刺激や活動のヒントを得られます!
4. 仲間を見つけよう! 交流会や勉強会で、相談相手や協力者もみつかるかも!

## 仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ



2014年1月15日(水) 13:30～15:30  
有給スタッフを抱えるNPOの方におススメ!!

申込み受付中!

講師：黒政 健 さん

【社会保険労務士 くらまさ社会保険労務士事務所代表】

会場：仙台市市民活動サポートセンター  
6F セミナーホール

定員：10 団体 (1 団体から複数人参加可)

対象：有給スタッフ・有償ボランティアを抱える NPO

参加費：1,000 円 (当日会場にてお支払いください)

申込み方法：チラシ裏の申込み書にご記入の上、サポートセンター 1 階受付又は FAX にてお申し込みください。お電話でも受け付けています。(申込み先着順)

## 社会保険労務士に聞く 労務 手続き入門

今、有給スタッフや有償ボランティアのいる NPO が増えています。しかし NPO の場合、人件費に充てられる収入源が限られており、不安定です。さらに労務の知識を持った人が団体内にいるとは限りません。活動を継続させていくためにも、この機会に労務の基礎を身に付けて、スタッフやボランティアが安心して長く活動できる職場環境を目指しましょう!

### つながる つなげる サポセン

#### ▶ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体や NPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

#### ▷ 相談・つながるサロンとは

市民活動サポートセンターとシニア活動支援センターの相談窓口を3階に集約し、じっくりご相談いただける環境を整えました。

#### ▶ 仙台市シニア活動支援センターとは

シニア世代の地域・社会参加活動を応援していますので、お気軽にお問い合わせください。

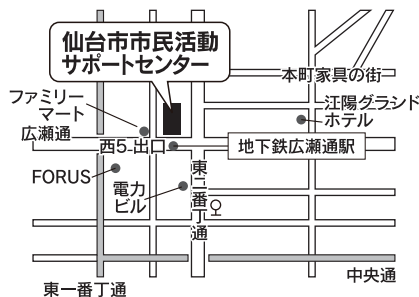
#### このようなご相談おまかせください

- ・市民活動の立ち上げ、法人格の取得
- ・団体運営、組織運営
- ・復興支援活動
- ・シニア活動、セカンドライフ相談など

#### 相談時間

- ・平日：午前 10 時～午後 8 時
- ・日祝：午前 10 時～午後 5 時

#### ▷ ご案内図



- ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄りのバス停] 電力ビル前、商工会議所前  
[地下鉄] 広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

- 当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でご来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注) 路上駐車・駐輪は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

#### ▷ 「ぱれっと」読者アンケート にご協力をお願いします!

サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で右記の2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



#### 編集後記：

サポセン 5F 交流サロンにある「展示スペース」は、市民活動団体の活動内容を PR したり、団体が取り組んでいる社会的な問題を伝える場です(表紙写真をご覧ください)。パネル 8 枚+テーブル 3 台と、決して広くはないスペースですが、写真や活動で制作したグッズなど、みなさん工夫を凝らした展示をしてくださいます。あなたなら何をどう伝えますか?お申し込みをお待ちしています。

#### 発行：仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目 1-3  
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042  
HP <http://www.sapo-sen.jp>  
Blog <http://blog.canpan.info/fukkou/>

発行日：2013年12月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター  
編集人：菊地竜生 菅野祥子 田口博徳 葛西淳子 松村翔子

#### ▽ 開館時間

平日：午前 9 時～午後 10 時 / 日祝：午前 9 時～午後 6 時

#### ▼ 休館日

毎月第 2・第 4 水曜日 (祝日の場合は翌日木曜日)  
及び、年末年始 (12/29～1/3)

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間 2010 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日]